

アジアにおける日本の金融機関の成長機会

ドイツ証券 山田能伸

本邦金融機関のアジアでのプレゼンスが高まっている。三大銀行グループのアジア向け貸出額は2010年3月期の1,128億ドルから12年3月期には2,072億ドルとなり、83.7%増加した。アジアでは経済発展とともに民間信用額が急増しているが、そのGDP比率はまだ低く銀行貸出の増勢が続いている。12年の貸出増加額は中国で15%、インドは21%、インドネシアでは18%が予想されている。国内で人口減少に直面している邦銀にとっては、アジアの成長を取り込むことが重要課題となる。

アジアだけではなく欧米でも邦銀のプレゼンスが高まっているが、その背景には相対的信用力の改善と欧州の銀行の資産削減がある。邦銀の国際業務における預貸率は実質で100%を切っており、預金と貸出の同時拡大という健全な成長が見られる。

欧米と違いアジアでは各国で金融規制が異なることから、国別のアプローチが不可欠である。例えば、中国では預貸率規制が厳しいことから、預金の獲得が重要になる。インフラ整備が本格化するインドでは、プロジェクトファイナンスの幹事になることの効果が大きい。二輪車、四輪車の普及が急速に進むインドネシアでは販売金融の成長性が高い。

アジアでのさらなる業務拡大としてはリテール部門への参入が考えられるが、自前でのコストは高い。各国とも、外国資本の参入規制があるため、欧米のようなM&Aは簡単ではない。少数持分出資によって、経営の関与度を徐々に高めていくのが現実的だろう。

邦銀のアジアでの貸出の内訳は、他の地域と同様、日系企業向けと非日系企業向けの割合がおおむね3:7となっている。この割合はここ数年大きな変化がなく、日系企業向け融資も高い成長が続いていることになる。近年、大企業のみならず中小企業のアジア進出も増加しているが、地銀の海外支店は数が限られていることから、十分な金融サービスをどう提供していくかが課題となる。

一方、アジアの資本市場は発展途上にある。各国の市場は時価総額では大きくなったが、政府系企業の民営化案件や大企業の増資案件などが中心で、流通額の厚みに欠ける傾向がある。株式の発行市場では欧米の投資銀行が既に大きなシェアを占めているが、流通額が増せば本邦金融機関の成長も期待されよう。中国など金利の自由化が進む国では、債券市場の拡大が予想される。この分野では、邦銀のノウハウが活用できる可能性がある。

高い信用力を背景にした邦銀の国際業務拡大は、1980年代にも見られた。ただ、大型買収案件や商業用不動産向け融資への傾斜は、90年代に不良債権の増加をもたらした。現在のアジアでの業務拡大はそうした教訓を生かし、日系、非日系企業に対する地道なアプローチによる地に足のついた成長を目指すべきだろう。